

## 第14回:ポール・ニューマン 『次は中国へ行こうぜ!』

いまはむかし、80年代の中国駐在は単身赴任者が圧倒的に多く、連日ヒマとの戦いだった。昼間は仕事をしているからまだ良い。問題は夜と週末だ。いと違って日本料理屋はない、ゴルフ場もない。カラオケもバーもないものだから、それが合体したカラオケクラブなどあるわけがない。

当時は、仕事もないのに午後7時近くまで職場でぶらぶらし、夜はホテルの食堂(中華料理のみ)で紹興酒やマオタイ酒を飲み、そのあとはヒマな仲間を自宅に呼んで、麻雀を打つくらいしか楽しみがなかった。

更に困るのが週末だ。何しろ朝からすることがない。太極拳や書道が大好きであれば別だが、興味がなければ街に出かけるしかない。ところが街に出ても(いと違って)見るものも、買うものもない。だから、そのころは週末に日本からお客様が来られると、大喜びで空港まで出迎えに行ったものだ。観光客は北京や上海のツアーを満喫して大喜びで帰るが、われわれ駐在員は「『住めば都』ならぬ『住まねば都』だ!」と、よく舌打ちしたのを覚えている。

あの退屈な時代、街で唯一の楽しみは映画だった。ただし、筆者はいまでも中国映画が苦手である。チャン・ツイイーから誘われたら、やむなく見に行ってもよいが、基本的には洋画専門である。当時の中国は、思想統制の観点から欧米の映画には厳しい検閲があったはずだが、娯楽映画には甘かったようだ。街の映画館でハリウッドものらしい看板を見かけると、中国語の題名と俳優のポスターで見当をつけ、よく飛び込んだものだ。

今年亡くなったハリウッドの大御所ポール・ニューマンの映画は上海でも何度か見た。「Butch Cassidy and the Sundance Kid」を日本では「明日に向かって撃て!」というタイトルで公開したが、中国では「虎豹小霸王」だ。P・ニューマンは「스팅」でもロバート・レッドフォードと共演し、絶妙の掛け合いを見せている。その気の効いたせりふを聞きたくて、映画館に足を運んだのだが、困ったことに当時の輸入映画は全て中国語の吹替えであった。

カウボーイ姿のジョン・ウェインが拳銃片手に「ライ!ライ!」、イングリッド・バーグマンが「リック!再見」などと叫ぶと、日本人はずっこける。なぜか中国服を着た漫才師「ゼンジー北京」が頭をよぎり、困ったことあるよ。

「明日に向かって撃て」の最期は、銀行強盗でボリビアの軍隊に追い詰められた二人の会話シーンである。重傷を負いながらP・ニューマンがノー天気にも、「次はオーストラリアに(銀行強盗に)行こうぜ、あそこは英語も通じるし」とささやき、R・レッドフォードが「オーストラリアに銀行なんてあるのかよ」と切り返

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

す。

この映画は 1969 年の作品だが、当時アメリカの銀行強盗は間違っても「次は中国に行こうぜ」なんて言わなかっただろう。何しろ英語は通じない、人が多く道は狭い、車が手に入らない、高額紙幣はない、奪った人民元は中国でしか使えないとなれば、無法者ブッチ・キャッシュディだって尻込みするだろう。

計画経済時代に政府の金庫番だった中国の銀行も、この 20 年で大きく変わった。なにしろ昔は中央銀行の下に、中国工商銀行、中国農業銀行、中国建設銀行、中国銀行の 4 行しかなかった。証券会社も生保もなく、損保は国営が一社だけ。

当時の銀行業務といえば預金吸収ならぬ(汚れた)紙幣回収、融資ならぬ公金給付であった。それが、改革開放政策とグローバル化の流れのなかで、「サブプライムローン」や「デリバティブ」にも手を染める商業銀行に変貌を遂げた。

いま世界の金融機関時価総額ランキング・ベスト10に、中国勢は3つの銀行と、生保1社が名前を連ねている。世界的な金融混乱のなかで、中国の銀行は最も傷が浅い部類に入るといわれているが、油断は禁物である。銀行強盗の撃退は容易でも、金融工学で厚化粧した金融商品にはブラックボックスという難敵が潜んでいる。

リスクヘッジにデリバティブの活用は必要であるが、投融資の基本は「シンプルイズベスト」にあるのではないだろうか。(了)

平成 20 年 11 月 18 日

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 121 号  
日本証券業協会 加入  
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 03-5117-1040

## ご投資にあたっての注意事項

### 手数料等およびリスクについて

株式の手数料等およびリスクについて

- ・ 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2075% (税込み) (約定代金が 260,869 円以下の場合、3,150 円 (税込み)) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- ・ 外国株式等の売買取引には、売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額)に対して最大 0.8400% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

債券の手数料等およびリスクについて

- ・ 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

投資信託の手数料等およびリスクについて

- ・ 投資信託のお取引にあたっては、申込(一部の投資信託は換金)手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- ・ 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0840% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- ・ 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.20% (税込み) (約定代金が 2,625 円に満たない場合は、2,625 円 (税込み)) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

### ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。